

『朝まで先哲』に参加して

去る7月9日（土）午前8時から翌10日（日）の正午まで、延べ約15時間、宇治市笠取の古民家を借りて、「先哲に学ぶ人間学＝朝まで先哲」合宿を、16名の参加者を得て開催しました。

毎月、一回の勉強会を年間通じて開催するとはいえ、毎回、一時間半という限られた時間であり、総復習も兼ねて一泊で勉強したいとの声がありました。

板の間に、座布団で正座。夜は雑魚寝。いい年齢のおじさん・お婆さんが、素直に真剣に学ぶ姿は、現代版「寺子屋」のようでした。

論語の学而第一に「学びて、時にこれを習う」とあります。

学んだことが、本当に身についているかどうか。学んだことが、正しく理解できているかどうか。学んだことを、繰り返し復習しているかどうか。再確認という意味でも、価値あることだと考えました。

また、16名の仲間が来てくださるのに、私が行かないわけに参りません。

十分な準備ができずに、資料も不十分でしたが、参加してくださった皆さんの熱意に助けられました。

先哲の学びは、為政第二「故きを温ねて、新しきを知らば、以て師たるべし」。に要約されます。

この混迷の時代、先行き不透明な時節を、経営者として、リーダーとして、社員や仲間を、どう安全に、確実に導けるか。

どこに活路を見出し、どの道を通ればいいのか。

正義と利害を、どう調整すればいいのか。

ぶれない正しい判断基準とは何か。

元氣や、勇氣や、本氣や、根氣は、どこから湧いてくるのか。

そのような、根本的・本質的な問いを議論し、あるいは自問自答し、先哲の教えを参考に、我が腑の深い所に落とす学びの場でもありました。

私自身、陽貨第十七の「性相近し。習相遠し」を、改めて実感しました。

参加者の皆さんの声は「学ぶに如かざるなり」「人、学ばざれば道を知らず」という点に集約されました。不思議なことに、学べば学ぶほど、学びの重要性を感じるもののようです。

今後、年に一度開催することになりそうです。社長、次回は是非ご参加下さい。



今月のポイント

学びに終りなし。

学び続ける限り青春は貴方のもの。